会員のひろば

サイの河原の苦行を いかんせん

美唄歯科医師会会員　雨田　実

私の伺ったところによると，すでに昭和11年に空知歯科医師会，美唄方面会創立15年史編纂の話は誰からともなく持ち上がっていたとのことである。その頃，空知歯科医師会会長の他に役員を何回も歴任して，そのかたわら美唄方面会会長として会の牛耳を執り，方面会随一の文学青年（その頃は）を自他共にゆるした高橋常保先生がご健在であったのに，どうして発刊できなかったのか，不思議でならない。その頃美唄に居なかった小生には，まことに解かりかねるけれど，私なりにその頃に想いを馳せれば翌年12年に美唄始まって以来の大火で会員も２名罹災の難に遭い，さらに翌年日華事変が始まり，会員の召集者も相次ぐという非常事態が重なったために，15年史編纂は成らなかったものと想うしか仕方がない。昭和37年頃新制度の美唄歯科医師会15周年史の編纂の気運が盛り上がり，美唄歯科医師会会員の情熱と息吹の高まりが，ひとつにまとまったと皆が思った時，高橋常保先生の好采配のもと修善寺物語の夜叉王の言葉のように，記念誌は自然と出来上がるものとその時は会員誰もがそう思った。それが一寸先は闇という形容詞は，このような時に使えば最も相応しいものかも知れない。40年も前のことだから，このようにのんきらしく書けるけれど，高橋常保先生の突然のご病気（眼底出血）で文字を読むこと，書くことはいっさい不可とのことをお聞きした時は，目の前が真っ暗になってしまった絶望感を昨日のことのように思い出す。（細部にわたっては平成９年10月号571号の道歯会通信，会員の広場，まぼろしの記念誌ご参照）それ程に難しい会誌の編纂ではあるが，歯会発会50年の今年こそはと，すっかり若返った美唄歯科医師会が，新しき酒は新しき器の言葉に忠実にとばかり，昨年12月18日，会史編纂実行委員会を開催し，編集委員長に，平理事を満場一致で選出した。平理事は数年前から会合の折などに，どうして美唄歯科医師会に現在まで会史が一度も編纂されていないのか？という疑問をよく問いかける。特に美唄在住会員中最年長の小生にはその風当たりをかねてから感じていた。１月の新年会の折，編集長として意欲は十二分に持っているが資料が殆どないに等しいとのことであったので，果たして役に立つかどうか分かりかねるけれど，小生が入会以来40年の道歯会通信が手元にあるので，もし必要ならば段ボール６個にわたるけれど，必ずしもよく整理されているとは我ながら申し上げかねるけれど，昭和37年以降，道内最小の美唄歯科医師会を道歯会員のかたがたに忘れられないために，

一寸の虫にも五分の魂を証明すべしと40年近く道歯会通信のレギュラーを自負して毎月，上手でもない文章をローカルに読者の声，ここ２年程は読者の広場に投稿したものの大部分を資料としてお貸しした。果たしてお役に立つかどうか？編集長としても，その整理に大変なご苦労をされたことは先般４月14日の第２回編集委員会に平編集長による，会史検討原資料，道歯会通信，美唄関係分というワープロによる約40頁にわたるものを各委員に手渡されたものを一読しても分かる。１月以来その整理のため休日なども殆ど費やしたとも，もれ伺うところである。本当にご苦労様でした。道歯会通信紙上をお借りしてお礼を申し上げたい。

第２回編集委員会議において終戦前の，空知歯科医師会，美唄方面会時代の大正から昭和22年までの日本史でいえば，高天原とも天岩戸時代ともいうべき時代の歴史を綴ること及び三井美唄炭鉱病院歯科の生い立ちから閉山による炭鉱病院の閉院まで綴るという難事を受け持たされたのには，いささか参ってしまった。方面会時代の資料は火災その他による焼失や紛失のため殆どないに等しいので，昭和37年頃に会史編纂のため週１回合計で10回程度扇谷会長宅をお借りして参集し，大老，老中，若年寄りその他の先生がたからの聞き伝えをメモしただけの，わずかな資料を頼りに毎晩老骨にムチ打ちながらサイの河原の苦楽？を味わっていると書いたら，甘ったれるな！という声がどこからか聞こえてきそうな気がする。これも平編集委員長の休日返上で40年の乱雑な資料の整理のご苦労に対する，いささかのお返しとして微力をつくしている心算であるが，日暮れて道遠しの感は否めない。高天原時代の考証がいかに難しいかの一端を申し述べると，道人名辞書によると高橋常保先生は大正７年美唄現在地において開院とあるが，美唄市刊の美唄百年史には大正５年開院とある如く困惑する。特に20代過ぎて終戦後になって初めて美唄に住むことになった他所（よそ）者である小生には出発点から会の歴史を綴ること自体が大変な間違いであるかも知れないような気がしてならない。三井美唄炭鉱病院歯科のことも終戦後のことはなんとか綴れても終戦前のこととなると，三井鉱山札幌支店で三井鉱山百年史にも病院関係記載は全くなく三井美唄鉱業所閉山時の三井美唄35年史にも僅か１頁程記載があるが誠に不確かなもので，各科の配置図面さえないようなもので，いつ頃から歯科が設置されたのか今の所，残念ながら皆目分からないのが現実であり，サイの河原の苦行は当分続くのではと思えてならない。何事によらず，指揮を執る人はしっかり皆を握り，握られるほうはしっかり従わなければ何事も成就しないことは明白であるのに，編集長がしっかりしているだけに，時代考証がこのように不確かでは，こちらの気持ちが納得いかなくて綴るに綴れない。サイの河原の苦行は続く。